

# 高田小学校 家庭学習の手引き

学校から帰った子どもたちが、

自分から机に向かう習慣が付いたら・・・

学習の力がアップしたら・・・

ほめる機会が増えたら・・・

高田小学校で活用している自主学習ノート「ふくみねノート」が、子どもたちの力を伸ばすノートになり、お家の方とのコミュニケーションのツールとなるように上手に効果的に活用していきましょう。

## 1 自主学習「ふくみねノート」のねらい

- ① 家庭での学習習慣を身に付ける。
- ② 自ら学習に向かう力、やり切る力、続ける力を育てる。
- ③ 学習の進め方、ノートの書き方を理解する。
- ④ 自分の課題に気付き、基礎学力を定着させる。
- ⑤ 応用や発展問題に挑戦し、学力を伸ばす。



## 2 家庭学習（宿題＋ふくみね）の進め方

- ① まず、「宿題」をすませる。
- ② 次に「ふくみねノート」の内容を決める。
  - 最初に【めあて】を決め、ノートに書く。
  - 最後に【ふりかえり】を書く。
  - 丁寧な字で色分け（3色・黒赤青）を工夫し、分かりやすいノートを目指す。



- ① めあて
- ② 日付
- ③ ふりかえり
- ④ 取り組んだ時間

特に①めあてと③ふりかえりは、具体的に書くことが大切です。ふりかえりとは、ふくみねノートで学習をして感じたことやわかったことを書きます。

①めあて ②日付と④時間

③ふりかえり

### 3 家庭学習の習慣や方法

#### (1) 家庭学習の習慣

- ①毎日必ず机に向かう。（学習する時間を決めて）
- ②机の上をきれいにしておく。
- ③テレビやスマホは消しておく。



#### (2) 学年の発達段階による家庭学習

	宿題	ふくみねノート
1・2年生	家の人と宿題を進められる。	先生の指示で取り組める。
3・4年生	1人でも宿題を進められる。	「家庭学習の手引き」にある内容に取り組める。
5・6年生	宿題以外にも予習や復習に取り組める。	課題を見つけ、解決に向けて取り組める。

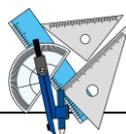
#### (3) 家庭学習の時間の目安

宿題の時間 + 学年 × 10分



#### (4) 「ふくみねノート」の内容例（こんな学習をしたら）

	国語	算数	社会・理科・総合
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、復習</li> <li>・漢字ドリル、漢検</li> <li>・プリント直し</li> <li>・意味調べ</li> <li>・本や教科書の視写</li> <li>・新聞コラムの視写</li> <li>・読書感想文</li> <li>・80字なんでも作文</li> <li>・テスト対策、直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、復習</li> <li>・ドリル、計算練習</li> <li>・プリント直し</li> <li>・教科書の問題</li> <li>・すいすいの復習</li> <li>・百マス計算</li> <li>・テスト対策、直し</li> <li>・問題集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、復習</li> <li>・疑問に感じたことを本やインターネットで調べ、まとめる</li> <li>・新聞記事を読んで</li> <li>・テスト対策、直し</li> <li>・自由研究</li> </ul>
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書を30分以上する。</li> <li>・国語辞典、漢字辞典、図鑑を使って調べられるようになる。</li> <li>・日本地図、世界地図、地球儀を身近に置いて調べる。</li> <li>・自然や生き物とふれあい、観察して、自由研究の題材にする。</li> <li>・詩や百人一首、名文などの暗唱に挑戦する。</li> <li>・自分に合ったものや将来の夢や職業について考える。</li> </ul>		



## 4 お家の方と共に

お家の方から向けられる温かいまなざしや頑張りを認めてもらえる言葉が、子どもたちにとって、何よりも安心した生活の土台となります。安心し、落ち着いて学習できる環境で、学力を伸ばしていきましょう。

○連絡帳はお家の方も必ず見るようにしましょう。学校の様子を話すきっかけや忘れ物をなくすステップになります。

○「ふくみねノート」には励ましのコメント（ほめコメ）やアドバイスをお願いします。子どもたちの意欲につながります。

○問題作りや丸つけなどに力を貸してください。

### 〈1・2年生では〉

○学習の際は、できるだけ近くで見守る。

○静かな環境を整えてから、学習に向かう姿勢を作る。

○少しずつ自分で時間割や学習用具を準備できるようにする。

○音読（教科書などを声に出して読むこと）を聞き役になる。

### 〈3・4年生では〉

○自分から自主的に学習に取り組む習慣を付ける。

○ほめコメで努力を認め、楽しく積み重ねられるようにする。

○地域の文化や産業、生き物の観察などにも興味を持たせる。

### 〈5・6年生では〉

○就寝時間など生活習慣を整え、学習時間に計画性を持たせる。

○家庭学習を通して子どもの適性を考え、進路について話し合う。

一緒に学習をすることで「何につまづいているか」をすぐに把握でき、その場で解決しやすくなります。間違いはすぐに直すことが、一番力になります。



## 5 「ふくみねノート」を充実させる6つのポイント

① ノートの文字は、ていねいに正しく書く。

② 間違えた計算問題は、赤で直す。

消さずに残し、どこで間違ったか振り返られるようにします。

③ **必ずお家の人に見てもらおう（ほめコメ）**

計算問題などの場合は、答え合わせまでするのが自主学習です。また、漢字練習では、最後に親が確認し、間違いに気付かせることが肝心です。書き順、はね、はらい、線の長さなど、細かい所も確認しましょう。

④ キッチンタイマーを活用して、集中力を高める

低学年では5分間黙って取り組む、ドリル学習では制限時間を決めて、取り組むなど、チャレンジ型の学習を取り入れることで集中力が養われます。



## ⑤ 教科書、新聞などの視写を取り入れる

句読点の打ち方、段落の分け方、原稿用紙の書き方等、作文の基本が身に付き、文章力が養われます。

## ⑥ 開始時刻と終了時刻を記入する

設定した時間内に「めあて」を達成できたか、決まった時間に机に向かっているかを確認められ、計画性、継続性が身に付きます。



# 6 「ふくみねノート」に親がコメントをすることで

## ① 「ほめ言葉」が子どものやる気スイッチをONにします

良い所をほめられると、子どもは「認めてもらえた」喜びで、明日もまた頑張ろうという気持ちになり、家庭学習が習慣になっていきます。

[うれしくなるコメント]

1 がんばったことを認められた → 「さいごまで、ていねいな字で書けたね」

2 工夫をほめられた → 「大事なところは赤や青で色分けできているね」

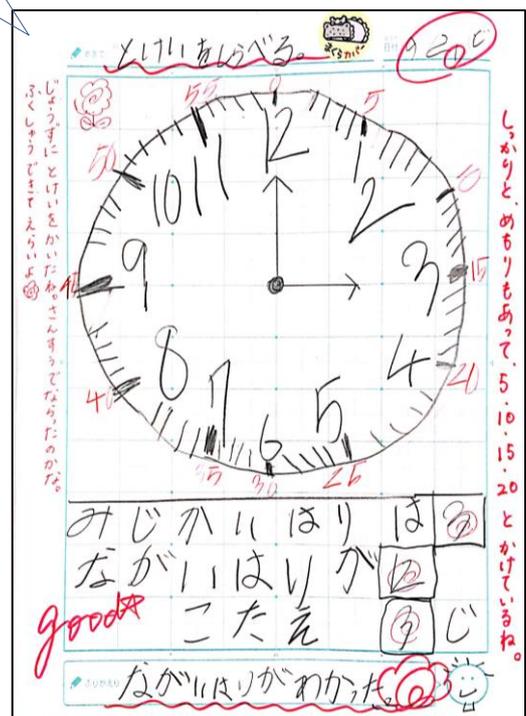
3 励ましてくれた → 「この努力を続ければ、きっと100点が取れるよ」

1年生のノートです。初「ふくみねノート」☆  
ほめほめコメントがとても励みになります。

## ② 子どもの好き、得意、苦手、ミスするところが見えてきます

コメントをしようとノートを見ると、現在の学習状況が見えてきます。コメントを続けていくということは、子どもの能力や適性を知り、夢や将来の職業、進路を共に考える最強のサポーターに親がなるということです。

また、まる付けをしていると、つまずきにすぐに気付けます。今子どもに必要な学習を親の経験からアドバイスしてあげてください。



## 7 「連絡帳」活用術

### ① 連絡袋は、家の中で出す位置を決めておく

袋には、連絡帳、宿題プリント、配布物、家からの提出物を入れます。袋を出す位置を決めておき、親も毎日確認できるようにしておきましょう。

### ② 連絡帳の宿題を見て家庭学習の計画を立てる

連絡帳を見ながら、どの順番で宿題をするか計画を立てましょう。宿題が終われば印を付けていきます。低学年や忘れ物が多い場合は、親が点検するようにしましょう。

### ③ 連絡帳の時間割、学習内容を親も確認する

連絡帳を見れば、子どもが今学校で何を勉強しているのかが分かります。「ふくみねノート」でする内容のアドバイスをしたり、時には問題を作ってあげたりして、一緒に学習を進めることも子どもの励みになります。

### ④ 持っていく物の準備が終わったら、連絡帳に印を付ける

持っていく物は、前日の寝る前に準備しておきましょう。そしてランドセルに入れたら、連絡帳に印をつけましょう。登校前にもう一度確認すると忘れ物はなくなります。

## 8 なぜ今、自主学習なのか

車の自動運転、IoT など、AI（人工知能）が身近な存在になってきました。15 年先には現在の仕事の半数近くは AI とロボットに代替され、30 年先には 2045 年問題、つまり AI が人類を超え、サラリーマン不要時代がやってくると指摘されています。



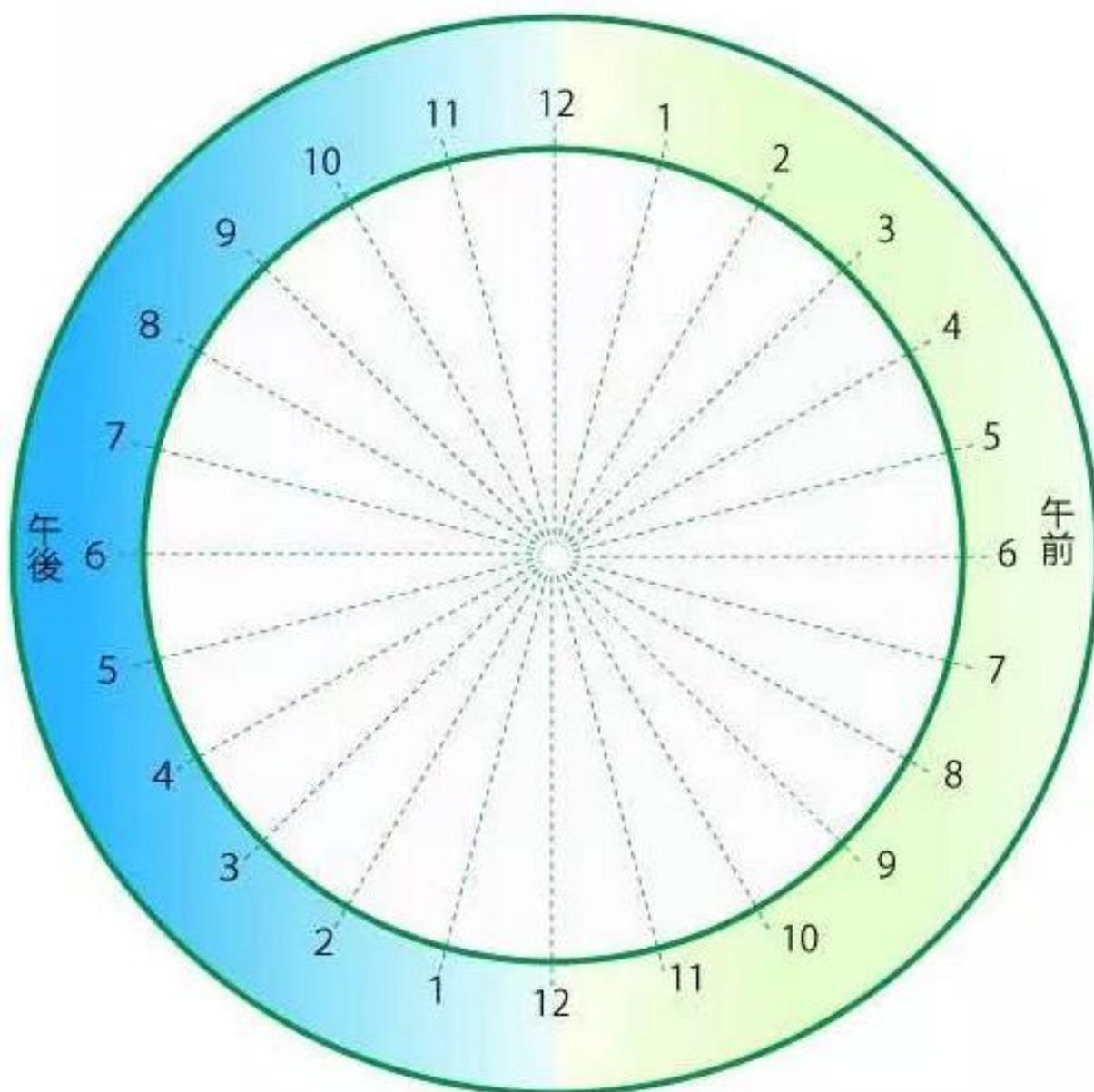
そんな予測不能の時代を迎えようとしている今、学校で育てるべき子ども像として強調されているのは、与えられてする人間ではなく、自分で考えて行動できる人間です。そこで、宿題以上に自主学習を重視する指導が注目されるようになりました。自分で課題を見つけ解決方法も考える自主学習の取組は、自分の人生の課題を乗り越えていく判断力・思考力・表現力を養う上でますます重要になっていくとされています。

とは言うものの、自主学習の力は簡単に身に付くものではありません。まずは学校と保護者が一体となって、子どもたちが自分でできるようになるまで見守る必要があります。丁寧な字で書くこと、1日の学習時間、1週間分の計画をたてること、落ち着いた学習環境を整えることなど、辛抱強く継続して取り組んでいきたいと考えています。

## 9 生活計画表を作ってみよう

自分の一日の計画表を作ってみましょう。自分で考えて、時間を使うことも「自主学习」の力とつながります。自分で計画した時間を目標として生活することで、集中して学習をしたり、「早寝、早起き、朝ご飯」の規則正しい生活習慣が身に付きます。

記入する内容 帰宅・夕食・お風呂・お手伝い・自由・明日の用意・就寝  
宿題・ふくみねノート・読書  
起床・朝食・忘れ物点検・登校・学校



参考図書 『自主学习ノートの作り方』伊垣尚人 著 ナツメ社  
『秋田県式勉強のルール』菅原 敏 著 メイツ出版  
『秋田県式家庭学習ノートで勉強しよう』主婦の友社 編

## 机の上は いつもきれいに



それぞれの学習用具を置く位置を決めましょう

学習になかなか集中できない原因の一つに、机が散らかっていることが挙げられます。必要ないものはしまって、机をすっきりとさせましょう。机を広く使うことで、学習もはかどります。

### ふでばこ

中身をすっきりとさせます。(えんぴつ4~5本、赤青鉛筆、消しゴム、名前ペン、じょうぎ)

下じき  
ノートを書くときは、必ずしきます。

### 教科書・ノート

右利きの場合、ノートは右に教科書は左に置きます。左利きの場合、逆になります。利き手側に、ノートを置きます。



## 子どもに合った文具を選びましょう



使いやすさを重視して文具を選ぶと学習の効率が上がります

学習に使う文具は、使いやすさにこだわって選びましょう。特に低学年では、使いにくい文具を使うことで学習の効率が下がり、集中できなくなる場合もあります。また、筆箱の中身は子どもが把握できるように、数を決めておくことも大切です。

### えんぴつ

- ・ Bか2Bが良い
- ・ 赤と青のえんぴつは、1本になったものがおすすめ。
- ・ 家で削っておきましょう。

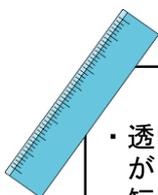
### 消しゴム

- ・ 白のシンプルなものが良い(見た目よりも、使いやすさを重視しましょう)



### じょうぎ

- ・ 透明が良い(下が透けて見える方が、定規を合わせやすい)
- ・ 短めが良い(筆算のとき便利)



どの文具も、学習に集中できるように、気が散らないようなシンプルなものが良いです。どれがいいか迷うときは、入学時に推奨された文具が良いですね。

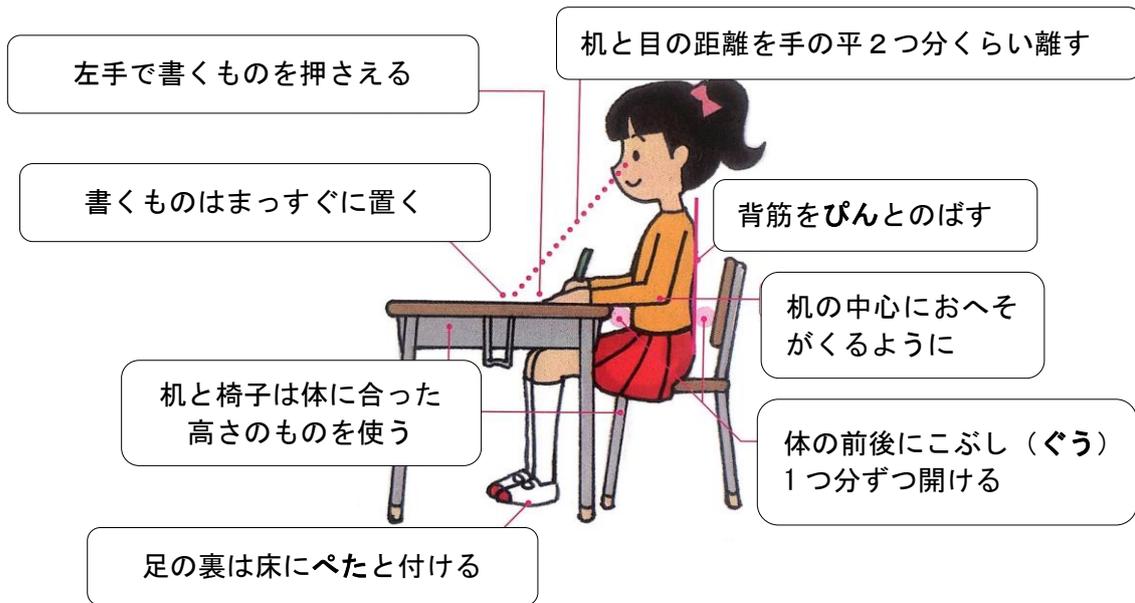
# 学習の姿勢は「ぺた・ぴん・ぐう」



正しい姿勢をすることで学習に集中できます

足はぺた、背筋はぴん、お腹と背中にぐう1つずつ。

集中力が続かない原因に、姿勢の悪さから体に負担がかかり、疲れてくるということが考えられます。



# 文字はていねいに書こう

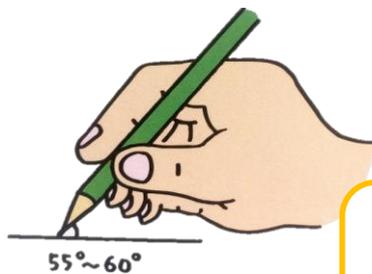


文字は見られるもの 見直すもの

文字は人に見られることを意識して、ていねいに書きましょう。ていねいに書くには、えんぴつの持ち方が大事です。低学年でも高学年でも、子どもたちが気にして「直したい」と思えるように声をかけましょう。

## 中指

第一関節を軽く曲げて、その上にえんぴつを置く。えんぴつを支える役目をします。

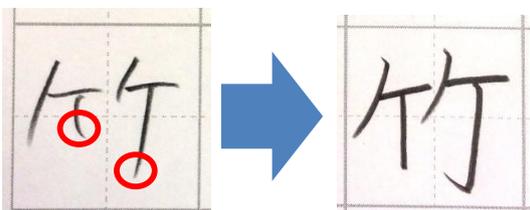


## 人差し指

えんぴつの進む方向を決める役目をします。

## 親指

人差し指より少しくしうでえんぴつをはさみます。



正しい筆圧で、とめ・はね・はらいもしっかりと正しく書こう。

マスの大きさに合わせて書こう。